

第 54 回宮崎県小学校教育研究会社会科部会

夏季特別研修会資料



会場:宮崎公立大学

令和7年8月7日(木)

目 次

1 本日の日程等	1
2 宮崎県小学校教育研究会社会科部会 研究主題等	3
3 研究発表資料	
日南市立東郷小学校 教諭 松村 寛子	10
4 学年部別授業づくり研修資料	
(1) 中学年 宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 神田 佳奈	20
(2) 高学年 宮崎市立西池小学校 教諭 宮本 航希	24
5 講演「社会科学習指導の充実に向けて」	27
講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 小倉 勝登 氏	
※ 事後アンケートへの協力について	29

第54回宮崎県小学校教育研究会社会科部会 夏季特別研修会

1 目 的 県小社研は、昭和38年に第1回の県大会を宮崎市で開催して以来、約50年にわたり実践的な研究に取り組んでいます。令和11年度には、初めての全国大会を控え、本県の取組を県内外に発信するための準備を進めているところです。

このことを念頭に置きつつ、県下の先生方の日々の成果を持ち寄り、実践的で意義のある研修会を開催したく下記のような内容での研修会を企画します。

2 研究主題 「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」

3 主 催 宮崎県小学校教育研究会社会科部会

4 後 援 宮崎県教育委員会 宮崎県小学校長会

5 期 日 令和7年 8月 7日(木)

6 会 場 宮崎公立大学

7 日 程

時刻	9:00	9:30	10:00	10:10	11:00	11:10	12:10	13:10	14:40	14:50
内容	受付	開会行事 研究の概要説明	研究発表	学年部別授業づくり研修			昼食・休憩	講演	閉会行事	
会場	101	201	101	101	101	101			101	101

8 内 容

(1) 開会行事 (9:30~10:00)

- 会長あいさつ 宮崎県小学校教育研究会社会科部会 会長 児玉 裕二(宮崎市立青島小学校長)
- 研究の概要説明 研究部長 吉田 美紀 指導教諭(高鍋町立高鍋西小学校)
- 諸連絡

(2) 研究発表 (10:10~11:00)

① 研究発表(10:10~10:30)

発表者	司会者	記録者
日南市立東郷小学校 教諭 松村 寛子	日南市立吾田小学校 指導教諭 郡司 美和子	宮崎市立古城小学校 小堀 恵子 宮崎市立学園木花台小学校 井崎 靖子

② 協議 (10:30~10:50)

③ 指導助言 (10:50~11:00)

【指導助言者】 県教育庁義務教育課 指導主事 島崎 博英

(3) 学年部別授業づくり研修 (11:10~12:10)

① 模擬授業 (11:10~11:35)

部会	授業提案者	司会者	記録	
中学年 201	宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 神田 佳奈	延岡市立東小学校 指導教諭 東坂 将秀	宮崎市立江平小学校 宮崎市立広瀬西小学校	平川由佳子 尾山由美子
高学年 101	宮崎市立西池小学校 教諭 宮本 航希	宮崎市立木花小学校 教諭 杏掛 美紗子	宮崎市立大塚小学校 宮崎市立宮崎西小学校	玉井菜七子 堀川 佳帆

② 協議(11:35~12:00)

③ 指導助言等(12:00~12:10)

中学年部【指導助言者】 北部事務所 教育推進課

指導主事 大田川真志

高学年部【指導助言者】 県教育庁義務教育課

指導主事 島崎 博英

(4) 講演 (13:10~14:40)

演題 「社会科学習指導の充実に向けて」

講師 国立教育政策研究所 教育課程調査官 小倉 勝登 氏

謝辞 宮崎県小学校教育研究会社会科部会 副会長 甲斐 正憲(日向市立細島小学校長)

(5) 閉会行事 (14:50~15:00)

- ・会長あいさつ
- ・諸連絡

9 研修会後アンケートについて

- 右のQRコードを読み取り、アンケートへの回答をお願いします。

【〆切 8月29日(金)】

【夏季特別研修会アンケートQRコード】

10 その他

- 本日の講演の資料等につきましては、

後日県小社研 HP (<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc046/>) に掲載しますので、ご確認ください。



自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習

～「ひなたの学び」を通して～

I 主題設定の理由

1 はじめに

現代は急加速で情報化が進み、予測が困難な時代である。だからこそ、次世代を切り拓く子どもたちは、新たな価値を生み出し、持続可能な社会の創り手として、豊かにたくましく成長していくことが期待されている。

このような社会であるから、ひとりひとりが、感性を豊かに働かせながら、よりよい社会や未来をつくるにはどうすればよいかを自ら考え出すことが必要である。また、答えのない課題に対し、多様な他者と協働して目的に応じた納得解や最適解を見い出しながら合意形成を図っていくことも望まれる。このように、将来の主権者にふさわしい公民的資質の基礎を育てることを目指す社会科の役割はますます重要と考えられる。

本県小社研では、平成27年度より、研究主題を「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」、副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業の構想」とし、問題解決的な学習を核とした単元構成及び授業構成に関する研究を進めてきた。

その結果、資料を根拠に自分の考えをまとめたり、発言したりすることができる子どもの姿が見られるようになってきた。しかし、対話を通して、社会的事象について比較・関連・総合して多角的に考えたり、新たな問い合わせ自ら見い出したり、学んだことを生かして自分と社会とのつながりを考えたりするまでには至っていない。

そこで、子どもの主体的に学ぶ姿勢や自分と社会とのつながりを考える力を育成すべく、今年度より副題を「『ひなたの学び』を通して」と変更することとした。「ひなたの学び」とは、宮崎県教育委員会が推進している、子ども達の学びに向かう方向性を分かりやすく整理したものである。「ひなたの学び」の「ひ」は、「ひとりひとりが問い合わせをもち」、「な」は、「なかまとなって学び合い」、「た」は、「たかめよう深く考える力」となっている。

「ひなたの学び」を意識した手立てを講じることで、子どもひとりひとりが問題意識をもって、解決への見通しをもち、学びを調整しながら問題解決を図り、社会的事象を自分事として捉えたり、社会とのつながりを考えようとしたりすることができるようになると考えられる。また、協働的に学び合い、多角的な視点で社会的事象を捉え、その中で、自分の考えを見つめ直したり、新たな問い合わせを見い出したりすることができると考えられる。さらに、子どもが学んだことを生かして選択・判断できる学習を意図的・計画的に単元構成の中に位置付ける。このような学習を積み重ねていくことで、社会を拓く子どもを育成できると考えられる。

以上のことから、研究主題を「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」、副題を「『ひなたの学び』を通して」として、研究を進めていくこととした。

2 主題について

「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子ども」とは

- 学習や生活の中で、社会に見られる課題をつかみ、知識と技能を活用して主体的に思考・判断したり、表現したりしながら課題を解決しようとする子ども
- 学習したことを生活に生かし、よりよい社会を考え続ける子ども

3 副題について

社会科における『ひなたの学び』とは

(1) ひ 「ひとりひとりが問いをもつ」

- ・ ひとりひとりが社会的事象に関心をもち、「問い」をもつ。
- ・ 問題に対して根拠を明確にした自分なりの答え（予想、仮説など）をもつ。
- ・ 調べる事柄や調べ方などの解決に向けての見通しをもち、学習計画を立てる。 など

(2) な 「なかまとなって学び合う」

- ・ 誰と学ぶのか、どのように学ぶのかなど、学び方を選択し、協働的に学ぶ。
- ・ 中なかまとの対話などを通して、多角的な視点で社会的事象を捉える。その中で自分の考え方を見つめ直したり、新たな「問い」を見い出したりする。 など

(3) た 「たかめよう深く考える力」

- ・ 中なかまとの協働的な学びを通して理解を深めたり、そこから生まれた新たな「問い」を追究したりする。
- ・ 学んだことを生かして、自分と社会とのつながりについて考えたり、自分ができることを選択・判断したりする。 など

II 研究の内容

I 今年度の研究の重点項目

問題解決的な学習を進める上で、「問い」は重要である。これまでも本県小社研では、「問い」（「ひなた」の「ひ」）をどのようにたせるべきかについて研究を進めてきた。今年度は、社会的事象について、比較・関連・総合して多角的に考えたり新たな「問い」を自ら見い出したりすることや、学んだことを生かして自分と社会とのつながりを考えたりする力の育成を図るために、協働的な学び（「ひなた」の「な」）を研究の重点項目と設定し、研究を進めることとした。

※協働的な学び

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する学び

（文部科学省 HP より）

ひなたの学び（子どもの姿）	教師の手立ての例
ひとりひとりが 問いもち どうして？なぜ？と問い合わせをもちます	○「問い合わせ」を生じさせる資料の提示 ○社会的事象を自分事として捉える工夫 ○ふりかえりを生かした学習問題の設定
なかまとなって 学び合い いろいろな人とつながり、学び合い、考えを広げます	○学び方を選択する場の設定 ○新たな資料の提示 ○なかまとの対話の場の設定 ○ふりかえりの場の設定
たかめよう 深く考える力 自らの問い合わせに対して、深く学び、さらに伸びていきます	○学び方を選択する場の設定 ○学びを生かして選択・判断する活動の位置付け ○ふりかえりによる学びの確認

さらに、次年度からは、協働的な学びの中で生まれた新たな「問い合わせ」を追究したり、主体的に自分と社会とのつながりについて考えたりするなど、問い合わせ続ける子どもの育成を目指していきたい。

2 研究の視点

（1）「ひなたの学び」を意識した単元デザイン

問題解決的な学習の過程において、指導者は、どのような知識を活用させるのか、どのような選択・判断の場面が設定できるのか等を明確にすることが必要である。そこで、「ひなたの学び」を意識しながら単元をデザインする。このような単元デザインにおける問題解決的な学習の流れは、以下の通りである。

○ 単元全体の流れ（例）

	学習内容
つかむ	資料と出合う ①
見通す	学習計画を立てる ②
調べる	資料やなかまとともに調べる ③ ④
まとめる	調べて分かったことや考えたことを文章や絵、年表などにまとめる ⑤ ⑥
ひろげる	学習したことをもとに自分と社会とのつながりなどを考える ⑦⑧ (選択・判断する、多角的に考える)

単元全体の中で、学習したことを生かして選択・判断したり、多角的に考えたりする学習内容について、学習指導要領には下記のように位置付けられている。

学年	内 容	内容の取扱い
3年	(3)「地域の安全を守る働き」	選択・判断
	(4)「市の様子の移り変わり」	発展
4年	(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」	選択・判断
	(3)「自然災害から人々を守る活動」	選択・判断
	(4)「県内の伝統や文化」	選択・判断
5年	(2)「我が国の農業や水産業における食料生産」	多角的・発展
	(3)「我が国の工業生産」	多角的・発展
	(4)「我が国の産業と情報との関わり」	多角的・発展
	(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」	選択・判断
6年	(1)「我が国の政治の働き」	多角的
	(3)「グローバル化する世界と日本の役割」	多角的 選択・判断

主に上記に挙げた学習内容で社会科における「ひなたの学び」の実現のため、実践を行っていく。今後、上記に挙げた学習内容だけでなく、様々な学習内容で多角的・発展な内容が実施できるかどうか、実践を集めていきたいと考える。

また、「ひなたの学び」は、単元を通してだけでなく、1単位時間の授業の積み重ねが重要であると考える。なお、1単位の中ですべて①②③を網羅する必要はない。

○ 1単位時間の流れ（例）

学習内容	
導入	前時の復習や資料から学習問題を考える ①
展開	資料やなかまとともに調べたり、考えたり、話し合ったりする ② な ③ た
まとめ	調べて分かったことや考えたことをまとめる ① な ③ た

(2) 必然性のある協働的な学びを展開するための指導の工夫

- 話し合う必要性を感じるような「問い合わせ」の設定
 - ・ 子どものふりかえりを生かした導入
 - ・ 自分事として考えられるような「問い合わせ」の質の向上など
- 資料の提示
 - ・ 子どもの思考のずれを生じさせる資料
 - ・ 実際の資料など
- ふりかえり

(3) 協働的な学びを支えるための手立て

- 学びを支える力の育成
 - ・ 資料を読み取る力
 - ・ 納得解・最適解にたどり着くために話し合う力など
- 深く考えたり新しい気付きが生まれたりするための指導の工夫
 - ・ 構造的な板書
 - ・ 思考ツールなどの活用
 - ・ ICT の活用
 - ・ ゲストティーチャーの活用など

III 研究の実際

第5学年「我が国の農業や水産業における食料生産（畜産業のさかんな宮崎県）」の実践

Ⅰ 「ひなたの学び」を意識した単元デザイン

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 我が国の畜産業は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境と深い関わりをもって営まれていることを理解している。</p> <p>② 畜産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり、新鮮で安心・安全な食料を消費地に届けるため輸送方法や販売方法を工夫したりしていることを理解している。</p> <p>③ 地図帳や各種資料で調べ、まとめている。</p>	<p>① 生産量の変化や輸出量の変化、口蹄疫などに着目して、問い合わせを見出し、生産者の工夫や努力について、考えたり、表現したりしている。</p> <p>② 学習したことを基に、畜産業の課題と自然条件に関連付けながら、これから畜産業の在り方について考えたり、選択・判断したりして表現している。</p>	<p>① 畜産業の現状や課題について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に、これから宮崎県の畜産業を安心して続けていくための取り組みを考えようとしている。</p>

(2) 単元指導計画

段階	学習活動	子どもの思考の流れ	評価
つかむ・見通す(2)	<p>1 学習問題を設定し、学習計画を立てる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 肉牛の飼育頭数の内訳のグラフを見て、畜産業がさかんな理由を考える。 ○ アカデミー賞発表後のパーティで宮崎牛が使われている映像を見る。 ○ 生産量の推移を見て気づいたことを発表し合い、学習問題を設定し、学習計画を立てる。 	<p>畜産の全国の生産量の内訳</p> <p>宮崎県 〈ブロイラー 1位〉〈豚肉 2位〉〈牛肉 3位〉</p> <p>どうして宮崎県は畜産業がさかんなのだろう</p> <p>〈広い土地〉〈自然環境〉〈人々の工夫や努力〉</p> <p>アカデミー賞の映像</p> <p>宮崎牛は世界にも認められているなんてすごい</p> <p>宮崎牛の輸出量の推移(H18~H27)</p> <p>平成22年に生産量が減っているけどそれから急激に増え続けているよ</p> <p>平成22年の減少と宮崎牛が世界に認められたとの関係あるのかな</p> <p>宮崎牛はどのようにして世界で認められるようになったのだろう。</p>	知①③
調べる(5)	<p>2 畜産業の人々の仕事の内容や工夫や努力を調べる。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 繁殖農家の仕事について調べる。 ○ 肥育農家の仕事について調べる。 ○ 出荷方法や出荷先について調べる。 <p style="text-align: center;">実践C</p> <p>3 口蹄疫の被害からどのように復興したのかを調べる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産量の推移のグラフを見て、平成22年に減っている原因が口蹄疫ということを確認する。 ○ 映像や資料を基に、口蹄疫とはどのような病気かを調べる。 ○ 口蹄疫で家畜29万7807頭が処分され、農家の人々はたくさんの被害を受けたという事実とそれでも2年後には品評会で高く評価されたという事実から、その理由を話し合う。 <p style="text-align: center;">実践A</p> <p>4 調べたことや話し合ったことを基に、学習のまとめをする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで学習したことを、クラゲチャートにまとめ、宮崎牛が世界に認められた理由を考える。 <p style="text-align: center;">実践B</p> <p>5 学習したことを基に、これからの宮崎の畜産業について考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎県産牛の輸出の移り変わり(H28~R2)と様々な課題(飼料の高騰や糞尿処理、労働者の高齢化)を基に、宮崎県の畜産業はこれからずっと続けていくか、そうでないかを考える。 ○ 他県が行っている持続可能な畜産業の取り組みの資料を基に、宮崎県に合ったこれから畜産業について考える。 <p>【本時10/10】</p>	<p>繁殖農家の人々はどのような工夫や努力をしているのだろう。【学①】</p> <p>肥育農家の人々はどのような工夫や努力をしているのだろう。【学②】</p> <p>どのようにして私たちのところに運ばれてくるのだろう。【学③】</p> <p>ゲストティーチャー</p> <p>教科書・資料集</p> <p>宮崎牛の輸出量の推移(H18~H27)</p> <p>平成22年に生産量が減っているのはなぜだろう【学④】</p> <p>口蹄疫が原因</p> <p>口蹄疫とはどのような病気なのだろう。【学⑤】</p> <p>口蹄疫は、家畜伝染病のことなんだ</p> <p>29万7807頭処分 被害額2350億円</p> <p>2012年の和牛の品評会から4回連続で1位になっている(新聞)</p> <p>口蹄疫で多くの被害を受けたのに、2年後には4回も1位を取り続けているのはどうしてかな。【学⑥】</p> <p>ミヤチクのパンフレット</p> <p>口蹄疫復興の資料と映像</p> <p>多くの人々の協力や努力、安心・安全な設備の徹底と宮崎牛ブランドを高めていくための取り組みを行っているからだ</p> <p>宮崎牛が世界に認められるようになったのは、口蹄疫を乗り越え、人々が様々な工夫や努力をし、宮崎牛のブランドを高めていく取り組みをしているから。</p> <p>宮崎県産牛の輸出量の推移(H28~R2年)</p> <p>飼料の高騰 糞尿の始末 労働者の高齢化</p> <p>これから宮崎県の畜産業はずっと続けていくのだろうか【学⑦】</p> <p>続けていく 続けていけない</p> <p>他県における持続可能な畜産業の取り組み</p> <p>宮崎県がこれからもずっと畜産業を続けるためには、どのような取り組みをすればいいのだろうか。(本時)【学⑧】</p> <p>宮崎県で求められている畜産業の在り方</p> <p>宮崎県がこれからもずっと畜産業を続けていくためには、宮崎県の自然条件を生かしたえさづくりや循環型農業など宮崎県の資源を最大限活用することが大切。</p>	<p>態①</p> <p>知②③</p> <p>思①</p> <p>知②③</p> <p>思①</p> <p>思①</p> <p>態②</p> <p>思③</p>
まとめる(1) ひろげる(2)			

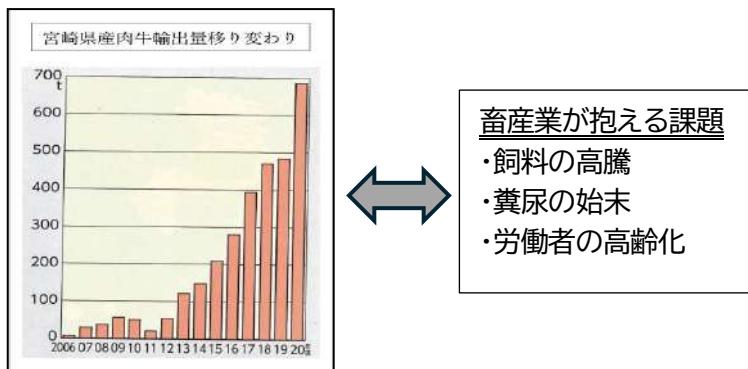
2 必然性のある協働的な学びを展開するための指導の工夫

○ 実践A：子どものふりかえりを生かした導入



教師が単元指導計画を考えたときには、「口蹄疫で多くの被害を受けたのに、2年後には4回も1位を取り続けているのはどうしてかな。」という学習問題を設定していた。しかし、ある子どもがふりかえりに「2年後には、日本一になったのが不思議でした。」と書いていたため、学習問題で「2年後には日本一」という言葉を使った。子どもの思いを基に学習問題を設定したことで、問い合わせを追究したいという思いが高まり、自然と仲間と話し合う姿が見られた。

○ 実践B：子どもの思考のずれを生じさせる資料



宮崎県産肉牛輸出量の移り変わりのグラフを提示したことで、子どもたちは、これからの宮崎県の畜産業が安泰だという思いをもった。そのうえで、畜産業が抱える課題を提示した。そうすると、「本当に安泰なのか。」という疑問が生まれ、仲間と話し合いたいという思いをもつ姿が見られた。

3 協働的な学びを支えるための手立て

○ 実践C：ゲストティーチャーの活用



ゲストティーチャーとして、畜産農家の方と農協の方に来ていただき、働く人々の工夫や努力について話を聞いていただいた。話を聞くことで、子どもの中に新たな疑問が生まれた。その疑問を解決するために、主体的にゲストティーチャーと関わろうとする姿が見られた。

○ 単元を通した実践：ICTの活用／納得解・最適解にたどり着くために話し合う力の育成



単元を通して自分の考えを伝え合う機会を多く設定した。その際、伝える相手や方法を自由に選択させた。また、ICTを活用して考えを全体で共有させた。そのような活動を繰り返し行うことで、教師が介入せずとも、子ども同士で考えをつなげながら話し合う姿が見られるようになってきた。

【 研究発表資料 】

研究研修（10:10～11:00）

発表者	司会者	記録者
日南市立東郷小学校 教諭 松村 寛子	日南市立吾田小学校 指導教諭 郡司 美和子	宮崎市立古城小学校 小堀 恵子 宮崎市立学園木花台小学校 井崎 靖子

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習

～問い合わせ続ける力を育む授業を通して～

単元名 国土の環境を守る 小単元 森林とわたしたちのくらし

宮崎県 日南市立東郷小学校 教諭 松村 寛子

1 研究主題とのかかわり

今、急激・加速的に時代が変化していく中で、次世代を切り拓く子どもたちは、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考えたり、答えのない課題に対して多様な他者と協働して目的に応じた納得解や最適解を見いだしたりしながら合意形成を図っていきることが望まれる。また、こうした力をもとに持続可能な社会の創り手として、豊かにたくましく成長していくことが期待されている。本県の児童は過去の各種調査等の中で、資料を読み取る技能だけでなく、読み取った事実をもとに比較・関連・総合して考えたり表現したりする力が十分に身に付いていないという実態が明らかになっている。

これらのことから、学習問題だけでなく、身近な社会生活の中でも問い合わせられるような具体的な授業の在り方について研究を進めるとともに、授業実践を積み重ねながら、指導方法の工夫・改善を図ることにより、「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」を目指したいと考え、本主題及び副題を設定した。

2 研究の視点

(1) 児童の問い合わせを生かし、問い合わせを生み続けるための単元構成の工夫

つかむ	世界の森林と日本の森林の現状を比較し、学習問題を設定する。
見通す	学習問題を解決するために、何が分かればよいのか課題を見つける。
調べる／まとめる	資料を活用し、それらを比較しながら調べ学習をする。
広げる	学んだことを生かして、森林を守るためにできることを話し合う。

学習問題の設定やその学習問題を解決するために必要な問い合わせを児童一人一人がもつことができるよう単元構造図を作成した。また、問い合わせを解決するために必要な資料等を準備し、課題解決に向けて取り組めるようにした。さらに、最後の広げる段階では、これまでに学習したことを生かして、自分事としてとらえられるように森林を守るためのこれから取組について考えられるようにした。

(2) 児童が問い合わせをもち、問い合わせ続けるための指導の工夫

① 地域素材の活用（日南市の飫肥杉について）

身近にある飫肥杉や飫肥杉の建築物について写真を見せ、森林と自分達の生活に密接に関わっていることについてとらえられるようにした。また、宮崎県での森林伐採の事件について紹介し、宮崎に関する森林事情について話すことで、身近な問題としてとらえられるようにした。

② 問いを引き出すために資料提示の工夫

児童の問い合わせを引き出すため、異なる事実を比較させることで、児童に問い合わせをもたせ、児童の問い合わせから学習問題を設定できるようにした。

③ 問い続けるためのふりかえりの活用

児童の問い合わせの可視化や、異なる問い合わせをもつ児童同士での対話を適宜実施し、学習後にふりかえりを行うことで、新たな問い合わせや視点を見いだすことができるようした。

3 研究の実際

(1) 児童の問い合わせを生かし、問い合わせを生み続けるための単元構成の工夫

教科書では、単元の第一時は日本の森林の様子について知り、学習問題を立てる展開となっている。本実践では、そこに世界の森林の様子についての資料を追加することで、日本の森林がどうやって守られているのかという学習問題を児童から引き出すこととした。このように、児童から様々な意見を引き出し、課題を解決していくという流れで単元構造図を作成した。また、その学習問題を解決するために何を学んでいけばよいのかを、第二時の見通す段階で学習計画を立てた。当初は、教師が単元全体の流れを作成していたが、児童による学習のふりかえりから生まれた新たな問い合わせなどを活用し、単元の流れを見直した。児童の振り返りの中に新たな問い合わせが生まれた場合は、その問い合わせを活用しながら次時へ進むようにした。そのため、児童は問い合わせの解決過程を自分事として捉えていくことができた。広げる段階では、森林をまもるために自分たちにできることを考えていった。児童は自分たちの身近な森林について思いを寄せながら、よりよく森林を守ることの大切さについてグループごとに積極的に話し合うことができた。これまでの学習を生かして、自分たちにできることを「森林を守るためにできること」だけでなく、「林業従事者を守るためにできること」という視点でも考えていくことができた。

(2) 児童が問い合わせをもち、問い合わせ続けるための指導の工夫

① 地域素材の活用（日南市の飫肥杉について）

身近な話題（日南市役所建替）やニュース（県内の違法伐採）と接続させ、社会とのつながりを実感させることで自然な疑問を生むことができた。

② 問いを引き出すための資料提示の工夫

児童の問い合わせを引き出すため、「資料から分かることは。」「世界の森林は減少傾向であり、年々減ってきてている。」「なぜ、日本は森林の面積が減っていないのだろう。」と投げかけた。「世界の森林面積が減少傾向であり、違法伐採が課題となっている。」という事実と、「日本の森林は約50年間、森林面積に変化がない。」という事実を比較させ、「日本の国土の約65%を占める森林面積がどうして減少していないのか。」という問い合わせから、「日本の森林はどうやって守られているのだろう。」という学習問題が設定できた。

③ 問い続けるためのふりかえりの活用

学習を進める中で、児童のふりかえりから生まれた新たな問い合わせを活用し、当初の学習計画を変更して取り組むことにした。児童は、問い合わせの解決過程を自分事として捉えることができた。

4 研究の成果と今後の課題（○：成果、●：課題）

- 単元を見通した構造図を作成し学習を進める中で、児童の振り返りから生まれた新たな問い合わせを活用して、単元の流れを見直すことで、問い合わせの解決過程を自分事として捉えることができ、学習意欲の高まりが見られた。
- 地域素材の活用や資料提示の工夫によって、森林について自分事として捉え、児童同士の対話を通して問い合わせ続ける児童の姿が授業の中で見られるようになった。
- 問いをつくり、深め、探究するには時間がかかるが、教科書に沿った進度も求められる中、単元のねらいと子どもの問い合わせがずれてしまうこともある。「単元のゴール」に収束するよう問い合わせを整理し、探究のスパンを短く区切っていく必要がある。
- 「問い合わせの力」や「調べる段階」の評価が難しいため、ノート、ふりかえりや発言などから「問い合わせの質の変化」「視点の広がり」などを評価する方法を研究する必要がある。

1 単元「森林とわたしたちのくらし」

2 単元の目標

- 林業に従事する人の仕事や森林資源の働きなどについて各種の資料で調べ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解することができる。 【知識及び技能】
- 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境について、森林資源が果たす役割や森林資源の保護をしていることの大切さを考え、表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 森林と生活について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことと社会生活に生かそうとする態度を養い、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情や将来を担う国民としての自覚をもつことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林資源の分布や働きなどについて地図帳や各種の資料で調べ、国土の環境を理解している。 ○ 調べたことを図表にまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林を守ることの大切さと森林を保護する人々の願いを結びつけて考え、表現している。 ○ 学習したことをもとに森林資源の保護のために自分たちができる考えたり、選択・判断したりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の森林の様子について調べ、日本の森林について学習問題や予想をもち学習計画を立てようとしている。 ○ 学習したことをもとに、森林資源の保護のために自分たちにできることを考えようとしている。

4 単元構造図（全7時間）

- つかむ（1）
- ① 世界の森林と日本の森林の現状を知り、学習問題を考える。【主体的に学習に取り組む態度】
- ・世界の森林→減少傾向・違法伐採
 - ・日本の森林→約50年森林面積変化なし・・・日本の国土を占める森林面積 約65%
 - ・日本の森林の面積が変わらないのはなぜだろう。
 - ・どうしたら面積が変わらないようにできるのだろう。

学習問題 森林はどうやって守られているのだろう。

見通す（1）

- ② 学習問題を解決するために、何が分かればよいのか課題を見つける。【主体的に学習に取り組む態度】
- | | |
|---------|-----------|
| 放置された森林 | 手入れをされた森林 |
|---------|-----------|
- ・どうやって森林の手入れをしているのだろう。
 - ・どんな人たちが森林を守っているのだろう。
 - ・手入れされていない森林が増えるとどうなるのだろう。
 - ・森林はなぜ必要なのだろう。

- ③ 資料を活用し、調べ学習をする。

I 森林はなぜ必要なのだろう。【知識・技能】

国土の保全…土砂災害防止機能、地球温暖化防止、生物多様性保全機能

水源の涵養 (=緑のダム)

森林は様々な機能をもっているため。

II どうやって森林の手入れをしているのだろう。【知識・技能】…(本時)

下草を刈る、枝打ちをする、間伐

道をつくる→木を切り出す→機械やトラックが通る

苗木を育てる→何十年もかかる

手入れをしている人々の工夫や努力、苦労や課題(現状から考える…違法伐採、機械化など)

多くの作業をくり返しながら、何十年もかけて森林の手入れをしている。

他にも森林に関わる仕事をしている人はいないのだろうか。

III どんな人たちが森林を守っているのだろう。【思考力・判断力・表現力】

林業従事者、山村に住む人々

木材を使って物を作る人々(木材木店)・それを使う人々

都道府県・市(区)町村の取組

たくさんの人々が森林に関わることで、森林を守ることができている。

林業従事者は減っているけれど、増やさなくていいのだろうか。

IV 林業従事者を増やす取組は、どうしているのだろう。【知識・技能】

林業大学(みやざき林業大学校 in 美郷町)→人材の育成

スマート林業
機械の性能向上

作業の効率化、負担軽減

ブランド化など

林業従事者を増やすために、人材育成や機械化を進めるなど様々な取組を行っている。

人が手入れをすることで、森林を守ることができている。

森林を守るために、わたしたちができることはどんなことだろう。

- ④ 学んだことを生かして森林を守るためにできることを班で話し合う。【主体的に学習に取り組む態度】
班で会社を立ち上げ、どんな取組をするのか考える。 【思考力・判断力・表現力】

5 本時の学習（4／7）

（1）本時の目標

資料から、林業に従事する人々の様子を調べ、長期間にわたる多くの作業の中で様々な工夫や努力をしていることや、林業にはいくつかの課題があることを理解することができる。 【知識・技能】

（2）展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価【観点】(方法)
つかむ（5）	<p>1 これまでの学習の振り返りをする。 ・森林が日本の国土にとってどんな機能を果たして いたかを振り返る。</p> <p>2 本時のめあて</p> <p>（め） どうやって森林の手入れをしているのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のふり返りを行い、森林には國土の保全や水源の涵養等、重要な機能があることを想起させる。 ○ 手入れをされた森林と放置された森林の写真を見せ、学習問題を解決するための課題を想起させる。
考える（30）	<p>3 森林の手入れの仕方について知る。</p> <p>①苗木を育てる ②苗木を植える ③下草をかる（雑草をかり取る） ④間ばつをする（不要な木を切りたおす） ⑤枝打ちをする ⑥木を切り出して運ぶ</p> <p>4 資料を使って、手入れをしている人々の工夫や努力、苦労や課題について考える。 個人 → グループ</p> <p>5 手入れをしている人々の工夫や努力、苦労や課題について発表しまとめていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業の収穫と比べ、苗木から材木として切り出すまでに長い年月がかかることに気付かせる。 ○ 資料を使いながら、自分の考えをまとめさせる。 ○ グループで考えを出し合い、工夫や努力、苦労や課題に分類しながらまとめさせる。 ◆ 林業に携わる人々は様々な工夫や努力をしていることを理解している。 【知識・技能】(付箋・発言) ○ 学級全体で分類したことを発表しながらまとめさせる。
まとめる（10）	<p>6 まとめる。</p> <p>（ま） 多くの作業をくり返しながら、何十年もかけて森林の手入れをしている。</p> <p>7 本時の学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習の中で、工夫や努力、苦労や課題について考えたことが表れるような振り返りができるように声かけをする。

※資料：森林・林業学習館

日南市立東郷小中学校 研究主題



みのり もり
穂の杜

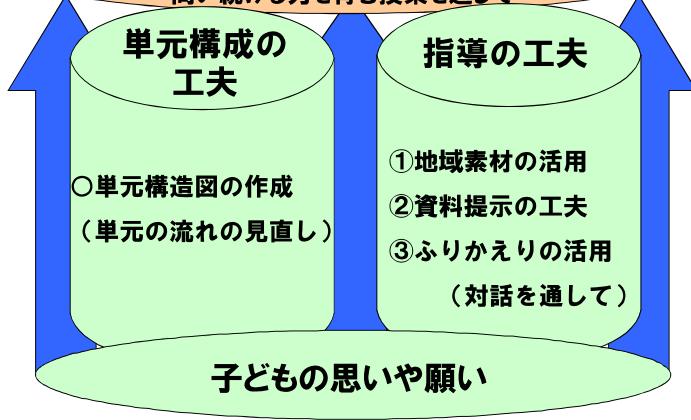
日南市立 日南東郷小中学校

松村 寛子



自ら学び、考え、社会を拓こうとする
子どもを育てる社会科學習
～問い合わせ続ける力を育む授業を通して～

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科學習
～問い合わせ続ける力を育む授業を通して～



単元 森林とわたしたちのくらし



単元構造図の作成

つかむ

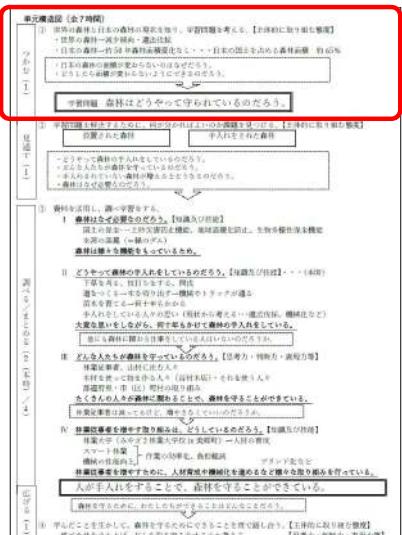
見通す

調べる/
まとめる

広げる



つかむ段階：
問い合わせを引き出すための工夫



つかむ段階：問い合わせを引き出すための工夫

第1時

単元構造図（全7時間）

- ① 世界の森林と日本の森林の現状を知り、学習問題を考える。【主体的に取り組む態度】
 - ・世界の森林—減少傾向・違法伐採
 - ・日本の森林—約50年森林面積変化なし・・・日本の国土を占める森林面積 約65%
 - ・日本の森林の面積が変わらないのはなぜだろう。
 - ・どうしたら面積が変わらないようにできるのだろう。

学習問題 森林はどうやって守られる

世界の森林と日本の森林

比較

なんで、日本は森林の面積は減っていないのだろう。

日本の人工林・天然林の移り変わり（教科書資料）

日本の森林はどうやって守られているのだろう。

資料からわかるることはなんですか。

世界の森林面積の増減

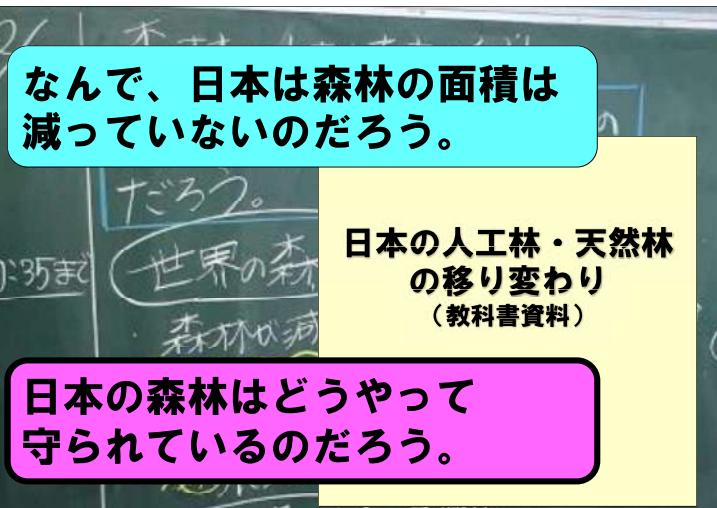
が分かる世界地図（インターネット資料）

世界の森林は減少傾向であり、年々減ってきてている。

熱帯雨林の違法伐採の写真（インターネット資料）

世界の森林面積40億ha（インターネット資料）

資料提示の工夫



見通す段階：問い合わせを引き出すための工夫

見通す段階：問い合わせを引き出すための工夫

第2時

- ② 学習問題を解決するために、何が分かればよいのか課題を見つける。【主体的に取り組む態度】
 - 放置された森林
 - 手入れされた森林
 - どうやって森林の手入れをしているのだろう。
 - どんな人たちが森林を守っているのだろう。
 - 手入れされていない森林が増えるとどうなるの。
 - 森林はなぜ必要なのだろう。

手入れされていない森林の様子（教科書資料）

暗い

手入れされている森林の様子（教科書資料）

明るい

こわい

行ってみたい

比較

調べる/まとめる段階：問い合わせを引き出すための工夫

児童の学習の振り返り

児童の新たな問い合わせ

調べる/まとめる段階： 問い合わせ引き出すための指導の工夫

第3時

資料を活用し、調べ学習をする。

I 森林はなぜ必要なんだろう。【知識及び技能】

国土の保全…土砂災害防止機能、地球温暖化防止、生物多様性保全機能
水源の涵養（＝緑のダム）
森林は様々な機能をもっているため。

問い合わせ引き出すための指導の工夫

森林が減らないということは…

何か理由があるはず！

日本の人工林・天然林 の移り変わり

（教科書資料） 森林が何か役に立ってるんじゃないかな？

問い合わせ

理科で二酸化炭素と酸素が、
関係していることを勉強したよ！

問い合わせ引き出すための指導の工夫

森林はなぜ必要なんだろう。

日本の人工林・天然林
の移り変わり
（教科書資料）

教科書
インターネット

森林には様々な機能があり、
日常の生活を守ってくれている。

調べる/まとめる段階： 単元の流れの見直し

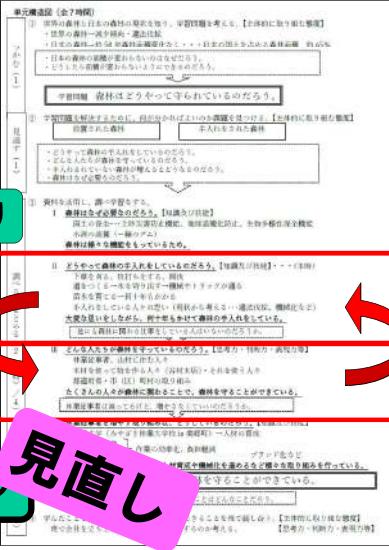
児童の学習の振り返り



児童の新たな問い合わせ



単元の流れの見直し



調べる/まとめる段階： 問い合わせ引き出すための指導の工夫

第3時

資料を活用し、調べ学習をする。

I 森林はなぜ必要なんだろう。【知識及び技能】

国土の保全…土砂災害防止機能、地球温暖化防止、生物多様性保全機能
水源の涵養（＝緑のダム）
森林は様々な機能をもっているため。

森林が必要なことは分かった。でも、
どんな人達が森林を守っているんだろう。

指導の工夫 地域素材の活用 日南市役所

夢見橋



地域素材の活用

谷材木店の谷啓一郎さんの話

木は、雑草と同じように勝手に生えて勝手に育ち大きくなるイメージがありますが、決してそういうことはありません。どのくらいの間隔で苗を植えたらちゃんと成長するのか考えて植えたり、小さいうちは雑草よりも低いので、日光が当たるよう雑草を定期的に刈ったりしています。また、大きくなってきたら間引きをして、ちゃんと成長するようにしています。山の斜面

木に価値を与える仕事

ちが生活できないと、山がすさんでいます。

携わる人々の思い →郷土愛を育む

ですが、とてもじゃないけれど、ティアで
やって手入れをされた木に価値を与える仕事だ

4年生の森林教育



宮崎県内でも
違法伐採！？

伐採されたまま放置



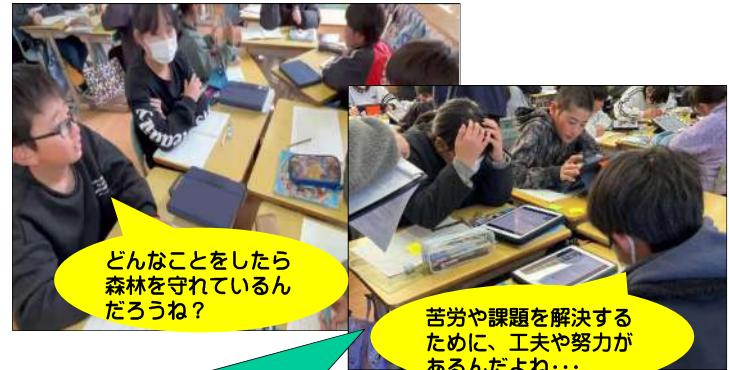
調べる・まとめる段階：問い合わせ続ける

第5時

II どうやって森林の手入れをしているのだろう。【知識及び技能】・・・(本時)
下草を刈る、枝打ちをする、間伐
道をつくる一本を切り出す一機械やトラックが通る
苗木を育てる一何十年もかかる
手入れをしている人々の思い (現状から考える…違法伐採、機械化など)
大変な思いをしながら、何十年もかけて森林の手入れをしている。
他にも森林に関わる仕事をしている人はいないのだろうか。

工夫や努力

苦労や課題

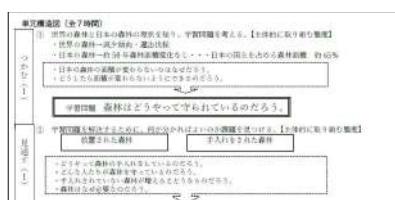


多様な考え方や視点にふれるための活動 問い合わせをもたせたい



児童の考えを可視化する。

調べる/まとめる段階： 問い合わせ続けるためのふり返り の活用



第6時

IV 林業従事者を増やす取り組みは、どうしているのだろう。【知識及び技能】

林業大学 (みやざき林業大学校 in 美郷町) 一人材の育成

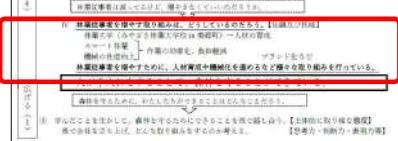
スマート林業

機械の性能向上

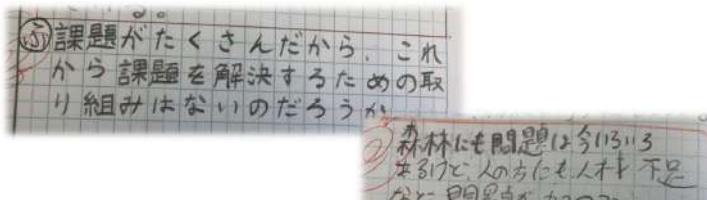
作業の効率化、負担軽減

ブランド化など

林業従事者を増やすために、人材育成や機械化を進めるなど様々な取り組みを行っている。

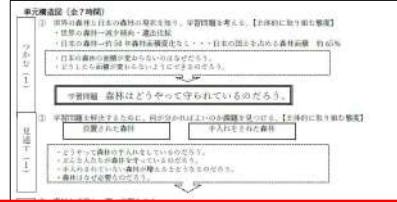


問い合わせ続けるためのふり返りの活用



異なる問い合わせをもつ児童同士で交流し、新たな視点を見いだす。

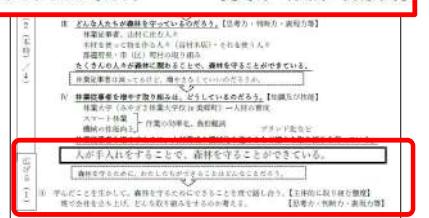
広げる段階：学びを生かす



人が手入れをすることで、森林を守ることができている。

森林を守るために、わたしができることはどんなことだろう。

- ④ 学んだことを生かして、森林を守るためにできることを班で話し合う。【主体的に取り組む態度】
班で会話を立ち上げ、どんな取り組みをするのが考える。【思考力・判断力・表現力等】



人が手入れをすることで、森林を守ることができている。

森林を守るために、わたしができることはどんなことだろう。

④ 学んだことを生かして、森林を守るためにできることを班で話し合う。【主体的に取り組む態度】
班で会話を立ち上げ、どんな取り組みをするのが考える。【思考力・判断力・表現力等】

広げる段階：学びを生かす

森林を守るために、わたしができることはどんなことだろう。



成果

- 単元を見通した構造図を作成し、学習を進める中で、児童の振り返りから生まれた新たな問い合わせを活用して、単元の流れを見直すことで、問い合わせの解決過程を自分事として捉えることができ、学習意欲の高まりが見られた。
- 地域素材の活用や資料提示の工夫によって、森林について自分事として捉え、児童同士の対話を通して問い合わせ続ける児童の姿が授業の中で見られるようになった。

課題

- 問い合わせをつくり、深め、追究するには時間がかかることがあった。「単元のゴール」に収束するよう問い合わせを整理し、追究する時間の見通しもつ必要がある。
- 「問い合わせを立てる力」や「追究の過程」の評価があいまいになりがちである。ノート、ふりかえりや発言などをもとに「問い合わせの質の変化」「視点の広がり」などを評価する方法を研究する必要がある。

ご静聴ありがとうございました。



【 学年部別授業づくり研修 資料 】

学年部別授業づくり研修（11:10～12:00）

部会	授業提案者	司会者	記録	
中学年 201	宮崎大学教育学部附属小学校 教諭 神田 佳奈	延岡市立東小学校 指導教諭 東坂 将秀	宮崎市立江平小学校 宮崎市立広瀬西小学校	平川由佳子 尾山由美子
高学年 101	宮崎市立西池小学校 教諭 宮本 航希	宮崎市立木花小学校 教諭 脇掛 美紗子	宮崎市立大塚小学校 宮崎市立宮崎西小学校	玉井菜七子 堀川 佳帆

第4学年社会科學習指導案

令和7年8月7日(木)
宮崎大学附属小学校
指導者 神田 佳奈

1 単元名 地震からくらしを守る

2 単元の目標

知識及び技能	地域の関係機関や人々は、様々な協力をして、過去に発生した地域の地震災害に対処してきたことや、地域で起こり得る地震災害への備えをしていることを理解するとともに、調べたことを図表や文等にまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	過去に発生した地域の地震災害と関係機関の協力に着目して、地震災害から人々を守る活動を捉え、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりして、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	地震災害から人々を守る活動について学習問題を追究・解決し、地域で起こり得る地震災害に備えて自分たちにできることを考えようとする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の関係機関や人々は、様々な協力をして、過去に発生した地域の地震災害に対処してきたことや、地域で起こり得る地震災害への備えをしていることを理解している。	① 過去に発生した地域の地震災害と関係機関の協力に着目して、地震災害から人々を守る活動を捉え、その働きについて考え、表現している。	① 地震災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、ふりかえったりして、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。
② 過去に発生した地域の地震災害や、関係機関の働き等について、聞き取り調査をしたり地図や関係機関が作成した資料等で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、図表や文等にまとめている。	② 学習したこと等を基に、地震災害から人々を守る活動と人々の生活を関連付け、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりして、表現している。	② 学習したこと等を基に、地域で起こり得る地震災害に備えて自分たちにできることを考えようとしている。

4 単元の指導計画・評価計画(全11時間)

段階	学習問題	主な学習活動	評価の観点
つかむ・見通す(1時間)	<p>○ 大きな地震が起こったら、どうなるのだろう。</p> <p><単元を貫く学習問題>「南海トラフ巨大地震」から私たちの命やくらしを守るためにには、どうすればよいのだろう。</p>	<p>1 新聞記事等の資料を見てもった疑問を基に、单元を貫く学習問題を設定し、予想や学習計画を立てる。</p>	主①
調べる(9時間)	<p>○ 「南海トラフ巨大地震」が起こったら、どのような被害があるのだろう。</p> <p>○ 宮崎県では過去にどのような地震が起こったのだろう。</p> <p>○ 地震が起こったら、誰が何をするのだろう。</p>	<p>2 内閣府や宮崎市が作成した資料等を基に、「南海トラフ巨大地震」について調べる。</p> <p>3 自然災害伝承碑の分布図等を基に、過去の宮崎県の地震被害について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外所地震 ・ 宝永地震 ・ えびの地震 <p>4 令和6年8月8日の地震発生後のタイムラインを基に、関係機関の働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮崎県内の市町村役所 ・ 自衛隊 	知・技①②

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所では、誰が何をしているのだろう。 ○ 災害のときに、企業はどのような協力をしているのだろう。 ○ 「南海トラフ巨大地震」に備えて、宮崎県が優先して取り組んだ方がよい備えは何だろう。 ○ 「南海トラフ巨大地震」に備えて、自分たちにはどのようなことができるだろう。 【本時 10／11時間】 	<p>5 宮崎市危機管理課の方の話を基に、避難所の運営について知る。</p> <p>6 「災害時応援協定」に関する新聞記事等を基に、企業の協力や取組について調べる。</p> <p>7 過去に他県で発生した地震の被害状況を基に、宮崎県が優先して取り組んだ方がよい備えについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本地震 ・ 能登地震 <p>8 学習したこと等を基に、「南海トラフ巨大地震」に備えて、自分たちにできることを考え、選択・判断する。</p>	知・技① 知・技①② 思・判・表① 思・判・表②
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「南海トラフ巨大地震」から私たちの命やくらしを守るために、大切なことは何だろう。 	<p>9 これまで学習したこと基に、単元のまとめと学び方のふりかえりを行う。</p> <p><単元を貫く学習問題のまとめ>宮崎県では、「南海トラフ巨大地震」から人々の命やくらしを守るために、様々な機関が協力して計画的に備えをしている。私たち一人一人が自分にできる備えをすることも大切である。</p>	知・技①② 主②

5 本時の目標

二次災害を想定し、自分の生活と関連付けて必要な備えを選択・判断し、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】

6 本時において見られる「ひなたの学び」

- 子どもの姿:これまで学習したことを生かしたり、なかまと対話したりすることを通して、自分が考えた「南海トラフ巨大地震」への備えを見つめ直したり、選択・判断したりする姿。
- 実現するための手立て:
 - ・ 葛藤を生じさせる条件の提示
 - ・ なかまと対話の場の設定
 - ・ 学びを生かして選択・判断する活動の位置付け

7 指導過程(10／11時間)

	学習活動及び学習内容	指導上の留意点(☆評価【評価方法】)	準備物
導入	<p>1 前時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「南海トラフ巨大地震」に備えて自分たちにできること <p><学習問題>「南海トラフ巨大地震」に備えて、自分たちにはどのようなことができるだろう。</p> <p>2 本時の学習を見通す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年8月8日に発生した地震 ○ 自助の力を高める必要性 	<p>○ 前時に考えた自分たちにできる備えを仲間と共有する時間を設定することで、「3」の段階で考えるための選択肢を増やすことができるようにする。</p> <p>○ 令和6年8月8日に地震が発生したときの状況を想起させることで、地震が発生する時間帯によって、いる場所やしていること異なることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「自分の命は自分で守るという気持ちをもってほしい」という宮崎県危機管理課の方の言葉を示すことで、自助の力を高める必要性に気付くことができるようにする。</p>	地震に関する新聞記事 宮崎県危機管理課の方の言葉

展開	3 「平日の夕方に地震が発生したら」という想定の下、自分が備えておきたいことを考える。 ○ 具体的な場面 ○ 自分が備えておきたいこと	○ 具体的な場面(塾や習い事に行っている、家に1人でいる、公園で遊んでいる、児童館で遊んでいる)を提示し、選択させてことで、備えておきたいことを自分事として考えることができるようする。	具体的な場面 ワークシート
	4 二次災害によって困ることや心配なことについて話し合う。 ○ 困ることや心配なこと	○ 数種類の二次災害カードから各グループに1枚配付することで、困ることや心配なことについて話し合うことができるようする。	二次災害カード
	5 地震を想定して、自分が備えておきたいことを選択・判断し、仲間と伝え合う。 ○ 自分が備えておきたいこと	○ 地震を想定して備えておきたいこととその理由を仲間と伝え合う時間を設定することで、仲間と助言し合い、より具体的な備えを考えることができるようする。 ☆ 二次災害を想定し、自分の生活と関連付けて必要な備えを選択・判断し、表現している。	
	【ワークシート・発言】		
まとめ	6 本時の学習をふりかえる。 ○ ふりかえり ・ 学習を終えて今考えていること	○ 本時の学習をふりかえる時間を設定することで、自分や家族を守るために備えをしたいという思いを高めることができるようする。	

8 本時の評価基準

- A 二次災害を想定し、自分の生活と関連付けてより安全に行動するための備えを選択・判断し、表現している。
 B 二次災害を想定し、自分の生活と関連付けて必要な備えを選択・判断し、表現している。
 C 地震に対して必要な備えを選択・判断し、表現しているが、想定した二次災害の備えにはなっていない。

地震からくらしを守る

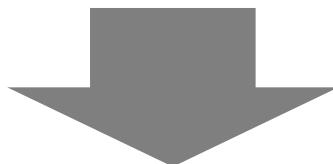


① 平日の夕方に地震が発生するかもしれません。あなたはどんな備えをしておきたいですか。

場面	備えておきたいこと

② 二次災害によって困ることや心配なことについて話しましょう。

二次災害	困ることや心配なこと



③ 自分が備えておきたいことと、その理由を書きましょう。

備えておきたいこと	理由

★ ふりかえり

<u>備えに対する安心度</u>	<u>学習を終えて今考えていること</u>
 —————  «理由»	

第6学年社会科學習指導案

令和7年8月7日(木)
宮崎市立西池小学校
指導者 宮本 航希

1 単元名 新しい日本のあゆみ

2 単元の目標

知識及び技能	我が国の戦後の復興について、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後、我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解するとともに、年表や文章にまとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催等に着目し、我が国の政治や人々の生活が変化したこと、我が国の国際社会において果たしてきた役割について、調べたり考えたりしたことを表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	戦後の我が国の復興や生活の様子について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、これから我が国が国際社会の中で果たす役割などについて考えようとする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 我が国の戦後の復興について、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、戦後日本は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たすまでになった事を理解している。 ② 調べたことを年表や文章にまとめている。	① 戦後、日本を立て直すために、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などに着目し、我が国の政治や人々の生活が変化したことや日本が国際社会において果たしてきた役割について、調べたり考えたりしたことを表現している。 ② これまでの歴史学習を基に、歴史を学ぶ意味について考えたり、表現したりしている。	① 我が国の戦後の復興について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② これまでの歴史学習を基に、過去の出来事と社会との関連や、歴史から学んだことをよりよい社会にしていくために生かそうとしている。

4 単元の指導計画・評価計画(全8時間)

段階	学習問題	主な学習活動	評価の観点
つかむ・見通す (1時間)	○ 戦争が終わった時、人々はどのように暮らしをしていたのだろう。	1 終戦直後のまちや人々の様子について「衣食住」「学校や子ども」「その他」の観点で調べる。 〈単元を貫く学習問題〉: 戦後、人々はどのように、日本を立て直したのだろう。	主①
調べる (4時間)	○ 新しい国づくりのための改革は、誰かどのように進めたのだろう。	2 戦後 GHQ が日本国憲法を基に、民主的で豊かな国づくりのために行った政策について調べる。	知・技①
	○ 日本はどのようにして国際社会に復帰したのだろう。	3 米ソ対立中に、日米が関係を深め、国際連合への加盟を経て、国際社会に復帰したことを調べる。	知・技①
	○ 産業が発展するにつれて、人々の暮らしはどのように発展したのだろう。	4 高度経済成長期により、日本の産業が急速に発展し、人々の暮らしが豊かになる一方、公害などの環境問題が発生したことを調べる。	思・判・表①
	○ 国際社会に復帰した後、国際社会と日本との関わりはどのようなものだったのだろう。	5 1964 年のオリンピック・パラリンピックをはじめ、日本万国博覧会や冬季オリンピック大会など、平和で民主的な国家として大きな役割を果たしたことについて調べる。	思・判・表①

（一時間） まとめる	○ 戦後、人々はどのように、日本を立て直したのだろう。 〈単元を貫く学習問題のまとめ〉 戦後の人々は、戦争の反省と平和への強い願いをもって、日本国憲法の制定や国際連合への加盟、産業の発展によって、日本を立て直した。	6 これまでの歴史学習を踏まえて、単元のまとめを考える。	知・技② 主② 思・判・表②
	○ 日本や国際社会には、どのような問題があるのだろう。 ○ これからの日本は、どの問題を優先して解決すべきなのだろう。 【本時 8／8時間】	7 国際社会や戦後、経済的に発展してきた日本に残された問題について調べる。 ・自然災害 ・少子高齢化の問題 ・日本人拉致問題 ・領土問題 8 これからの日本は、どの問題を優先して解決すべきかについて、自分の考えをまとめる。	

5 本時の目標

これまでの歴史学習を踏まえて、日本はどの問題を優先して解決すべきかを考え、表現することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

6 本時において見られる「ひなたの学び」

- 子どもの姿
 - ・ 学んだことをもとに、協働的に話し合う中で、自分と社会とのつながりを見い出し、よりよい社会について考える姿
- 教師の手立て
 - ・ 学習形態の選択
 - ・ 思考ツールの活用

7 指導過程(8/8時間)

	学習活動及び学習内容	指導上の留意点(☆評価【評価方法】)	準備物
導入	I 前時の学習を振り返る。 ○ 戦後から国際社会までの復帰について <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後の焼け野原の状態からオリンピックまで 約 20 年足らずで復興した。 ○ 日本と国際社会を取りまく問題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害 ・ 少子高齢化の問題 ・ 日本人拉致問題 ・ 領土問題 〈学習問題〉 これからの日本は、どの問題を優先して解決すべきなのだろう。	○ これまでの資料を提示し、振り返らせることで、本時の学習問題につなげる。	・ 戦後の焼け野原の写真 ・ オリンピック・パラリンピックの写真 ・ 日本と北朝鮮による代表者会議 ・ 竹島の写真 ・ 少子高齢化に関するグラフ ・ 豪雨災害の資料
展開	2 日本が優先してどの問題を解決すべきかを考える。 (予想される児童の考え方) 「私は、少子高齢化の問題を優先して解決することが大事だと思います。なぜなら、このままで人口が急激に減って、働く大人も減り、日本の産業などが衰退して、国際社会で重要な役割を果たすことができなくなるからです。」 3 日本が優先してどの問題を解決すべきかを交流する。	○ どの問題を優先して解決すべきかを考えるために、ダイヤモンドランキングを用いて理由も含めて考え、表現させる。 ○ 一人一人が主体的に学習できるよう、学習形態(個人・ペア・グループ等)を選ばせる。 ☆ 日本がどの問題を優先して解決すべきかについて理由と共に自分の考えを表現している。 【ワークシート(記述)】	・ タブレット ・ ワークシート

まとめ	4 日本はどの問題を優先して解決すべきかを再び考え、表現する。	<p>○ 友達との意見交流を踏まえ、自分の考えをまとめて、日本はどの問題を優先して解決すべきかを再び考え、まとめる。</p> <p>☆ 日本がどの問題を優先して解決すべきかについて理由と共に自分の考えを表現している。</p> <p>【ワークシート(記述)】</p>	
-----	---------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

8 本時の評価基準

- A 日本はどの問題を優先して解決すべきか、これまでの歴史学習を踏まえて、理由と合わせて具体的に表現している。
- B 日本はどの問題を優先して解決すべきか、理由も踏まえて、表現している。
- C 日本はどの問題を優先して解決すべきか、理由も踏まえて、表現するまでいたっていない。

講演（13:10～14:40）

【演題】社会科学習指導の充実に向けて

【講師】国立教育政策研究所 教育課程調査官 小倉 勝登

令和7年度 夏季特別研修会 事後アンケートにご協力ください

本日は、お忙しい中、令和7年度夏季特別研修会にご参会ください、ありがとうございました。宮崎県小学校社会科研究会では、先生方のご意見をもとに、よりよい研修会の実施に努めたいと考えております。つきましては、お帰りの前にアンケートへのご協力をお願いします。ご理解の上、ご協力をよろしくお願いします。

